

今回は、県南教育事務所管内における社会教育事業について紹介します。

「平泉出前教室」管内39小学校で実施！

平成29年度、「県南教育事務所管内『世界遺産 平泉出前教室』」を管内の半数以上の小学校（管内67校中39校）で実施しています。本教室は、「世界遺産『平泉の文化遺産』について、児童の興味・関心・理解を促すとともに、郷土に誇りを持ち、文化財を愛する態度を養う」ことを目的としています。

平成28年度は、管内22小学校 延べ1,096名の児童に「平泉出前教室」を行いました。今年度は、学校数では昨年度の約2倍となる管内39小学校、人数では、約1.5倍の延べ1,498名の児童に行っている状況です。

「平泉出前教室」は、県南教育事務所 社会教育主事が小学校に訪問して実施するものです。クイズと講義の2本立てで、1時間程度の内容です。「社会科」や「総合的な学習の時間」の他に、「保護者・祖父母参観日」や「地域への学校開放日」等でも実施しています。

児童の感想には、「藤原四代がどのような思いで平泉の町づくりをしたのかわかりました」や「平泉に行ってみたくまりました」等、郷土の理解への深まりや、郷土を誇らしく思う声がありました。



(平泉出前教室の様子)

教育振興運動推進研修会 全県共通課題と地域の課題の有機的連動

6月に、県南教育事務所管内教育振興運動推進研修会を行いました。教育振興運動5ヵ年プラン3年目ということもあり、全県共通課題の「情報メディアとの上手な付き合い方」と地域の教育課題の有機的連動を重点にして取り組んでいます。

本年度の研修会では、臨床心理士である玉置正子先生に、「ネット依存・ゲーム依存」その対策を考える～子どもの未来を守るために、わたしたちができること～と題して講演をいただきました。

また、事例発表では、奥州市立真城小学校PTAの「生活ログ」の取り組みと小梨自治振興協議会の放課後子ども教室について紹介していただきました。奥州市立真城小学校の発表では、学校と家庭が協力しながら、子供達の生活リズムの改善に取り組む事例について紹介していただきました。また、小梨自治振興協議会の発表では、さまざまな自然体験、生活体験を通して、子供達の健全育成を目指すとともに、地域でジュニアリーダーの育成に取り組む事例を紹介していただきました。

講演や事例発表を通して、活動へのイメージができ、多くの実践区で有機的連動を意識した取組を行なっていた多く、よいきっかけとなりました。



臨床心理士

たまき まさこ
玉置 正子先生

子供の読書活動の活性化に向けて「読書ボランティア研修会」

「平成29年度子どもの読書活動状況調査」を実施しました。この調査から、岩手県の傾向としての小・中学生ともに、読書冊数は増えていくことがわかりました。また、管内児童生徒は、県平均を上回る読書をしていることがわかりました。なかでも、中学生の学校図書館を利用した割合、公立図書館を利用した割合が高い結果となりました。このように、管内の子供の読書活動が活発な要因の一つとして、読書ボランティアの活躍が挙げられます。そこで、好ましい児童生徒の読書環境の維持と更なる充実を図ることを期して、今年度は、若い世代の読書ボランティアを育成し、活動を引き継いでいくことをテーマに、読書ボランティア研修会を企画しました。この企画の趣旨に賛同し、多くの先輩ボランティアが参加してくださいました。そして、読書ボランティア活動に興味をもって参加した若い世代に対して、自分達の技術や思いを伝えていただきました。

項目	管内小5	県小5	管内中2	県中2
1ヶ月間の平均読書冊数	18.5冊	16.4冊	5.2冊	4.5冊
1ヶ月に読んだ本のうち 学校図書館から借りた本の割合	53.6%	53.7%	37.2%	31.1%
1ヶ月に読んだ本のうち 公立図書館から借りた本の割合	22.9%	20.7%	14.0%	11.1%
1ヶ月に読んだ本のうち 紹介したいと思った本の割合	17.3%	19.5%	29.6%	31.1%

(「平成29年度子どもの読書活動状況調査」11月実施：岩手県教育委員会)



胆江ゆめネットワーク
代表
新渡戸 智子さん

胆江ゆめネットワーク
事務局長
菊池 千賀子さん